

高齢がん患者 積極治療控え

高齢のがん患者が増える中、国立がん研究センターは今年8月、患者の年齢ごとの治療法について調査結果を発表した。75歳以上の患者は、それより若い世代の患者に比べて、体に負担のかかる治療法を控える傾向のあることがわかった。こうした実態が明らかになったのは初めて。高齢者のがん治療については、これまで明確な基準がなく、国は高齢者のがん治療の指針(ガイドライン)を作成する方針だ。

国立がんセンター調査

体の負担を考慮

2015年に、がん治療の拠点となる全国のがん診療連携拠点病院など427病院でがんと診断された70万人分の診療情報を集めた。患者の平均年齢は68・5歳で、75歳以上は36・5%を占めた。今回の調査では、そのうち40歳以上を対象に、胃、大腸、乳房など12の部位について、5歳刻みの年齢ごと、進行度ごとに治療法を分析した。

高齢のがん患者は、年齢、進行度とも上がると、若い世代の患者とは治療傾向が大

きく異なっていた。がんの進行度は、病期(ステージ)で表し、0から4にかけて進行するが、例えば患者数が最も多い大腸がん

で、ステージ3の場合、75〜84歳の約52%、85歳以上になると約80%が「手術のみ」だった。

一方、40〜64歳では、手術(または内視鏡)に抗がん剤を組み合わせた治療が約75%を占め、「手術のみ」は約16%だった。

最適治療迷う医師

70歳以上データ乏しく

がんの治療は、現時点で最良の治療であることが証明され、一般的な患者に推奨される「標準治療」を行うのが基本だ。しかし、標準治療の基となる臨床試験は、多くの場合、70歳以上は対象外とされ、高齢者のがん治療

4で85歳以上は「治療なし」が58%を占めたが、40〜64歳では「治療なし」は約9%。40〜64歳は「抗がん剤のみ」が約49%で最も多かった。

大腸がん、肺がんを除き、85歳以上かつステージ4の患者で「治療なし」だった人の割合を見ると、胃がんでは56%。特に治療が難しい膵臓がんでは60%だった。一方、乳がんや前立腺がんでは、高齢でも抗がん剤治療を受ける割合が高かった。



がんのステージ、年齢別の主な治療法(2015年、%)

| がんの種類 | 年齢 | 治療法 | | |
|-------------------|------|------|----------|---------------------|
| | | 手術のみ | 抗がん剤治療のみ | 手術(または内視鏡) + 抗がん剤治療 |
| 大腸がん、ステージ3 | | | | |
| 40〜64歳 | 15.7 | 0.8 | 75.3 | 0.4 |
| 65〜74歳 | 24.5 | 0.8 | 67.9 | 0.7 |
| 75〜84歳 | 51.5 | 0.5 | 40.5 | 1.9 |
| 85歳以上 | 80.2 | 0.2 | 4.9 | 7.8 |
| 大腸がん、ステージ4 | | | | |
| 40〜64歳 | 11.3 | 19.9 | 56.5 | 4.6 |
| 65〜74歳 | 15.9 | 18.0 | 52.4 | 6.7 |
| 75〜84歳 | 29.7 | 12.6 | 33.4 | 14.7 |
| 85歳以上 | 39.2 | 2.6 | 7.2 | 36.1 |
| 肺がん、ステージ4 | | | | |
| 40〜64歳 | 1.6 | 49.4 | 4.4 | 8.9 |
| 65〜74歳 | 2.2 | 47.8 | 3.2 | 13.7 |
| 75〜84歳 | 2.2 | 36.0 | 1.6 | 30.2 |
| 85歳以上 | 1.5 | 14.4 | 0.2 | 58.0 |

手術(または内視鏡)に抗がん剤を組み合わせた治療が約75%を占め、「手術のみ」は約16%だった。

75歳以上は、それ以下の若い世代と比べ、「治療なし」の割合も多かった。大腸がんのステージ4では、85歳以上の「治療なし」は約36%。これに対し、40〜64歳は「治療なし」は約5%、「手術または内視鏡」と「抗がん剤」を組み合わせた治療が約57%と最も多かった。

がんの治療は、現時点で最良の治療であることが証明され、一般的な患者に推奨される「標準治療」を行うのが基本だ。しかし、標準治療の基となる臨床試験は、多くの場合、70歳以上は対象外とされ、高齢者のがん治療

4で85歳以上は「治療なし」が58%を占めたが、40〜64歳では「治療なし」は約9%。40〜64歳は「抗がん剤のみ」が約49%で最も多かった。

大腸がん、肺がんを除き、85歳以上かつステージ4の患者で「治療なし」だった人の割合を見ると、胃がんでは56%。特に治療が難しい膵臓がんでは60%だった。一方、乳がんや前立腺がんでは、高齢でも抗がん剤治療を受ける割合が高かった。

国立がん研究センター長(左)と東京都中央区の国立がん研究センターで、後藤由耶撮影